

[トレンドマイクロ] ([4704]) 企業分析レポート | 作成日：2026年01月17日

【直近5年の業績推移】

決算期	売上高 (百万円)	営業益 (百万円)	経常益 (百万円)	EPS (円)	配当金 (円)	寸評
2020.12	174,061	39,464	39,854	193.4	-	安定成長
2021.12	190,359	43,641	44,501	275.2	-	利益拡大
2022.12	223,795	31,340	34,162	213.6	-	利益減少
2023.12	248,691	32,602	36,181	78.5	-	EPS急落
2024.12	272,638	48,105	52,840	259.1	-	過去最高

【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF (百万円)	投資CF (百万円)	財務CF (百万円)	現金残高 (百万円)	自己資本比率 (%)
2022.12	56,903	-67,716	-30,437	207,643	48.2
2023.12	57,227	31,000	-43,433	261,265	43.0
2024.12	46,781	5,044	-130,900	187,392	29.2

【財務コメント】

営業キャッシュフローは安定して正の水準を維持している一方、2024年は財務CFの大幅なマイナスにより現金残高が減少した。自己資本比率も低下傾向にあり、資本政策とキャッシュ配分の変化が読み取れる。

【会社概要】

トレンドマイクロは法人向けウイルス対策ソフトで国内首位級のシェアを持つ情報セキュリティ企業である。主力製品「ウイルスバスター」を中心に、クラウド、ネットワーク、エンドポイントを統合したセキュリティサービスを展開し、世界市場でも高い認知度を有する。

【歴史】

1988年に設立され、個人向け・法人向け双方のウイルス対策ソフトで成長してきた。インターネット普及とともに事業領域を拡大し、近年はクラウドセキュリティやゼロトラスト分野へ注力。グローバル展開を進めながら、サブスクリプション型モデルへの移行を進めている。

【立ち位置】

情報セキュリティ分野において国内トップクラス、世界的にも有力な専業ベンダーの一角を占める。SIerや通信事業者とは異なり、純粋なセキュリティ専業としての技術力とブランド力が強みであり、企業のDX進展に伴う需要拡大の恩恵を受けやすい立場にある。

【見解】

中長期的には、サイバー攻撃の高度化とクラウド利用の拡大を背景に、統合型セキュリティ需要は底堅く、ブランド力と技術資産を持つ同社は恩恵を受けやすい。一方で、自己資本比率の低下や現金残高の減少が示すキャッシュ配分の変化、競合環境の激化による価格圧力には注意が必要で、成長投資と収益性の両立が評価の分岐点となる。

【株価・市場情報】 (2026年01月16日時点)

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
6,467	27.9	6.80	-	43.9	9,112

【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億)	特徴
大塚商会	3,225	20.8	3.28	12,300	独立系SI大手。開発から保守まで一貫し中小に強み。事務用品の販売も展開。
S C S K	5,666	27.9	15.6	17,700	住商系ITサービス大手。開発・運用が主力でBPOやコンサルも。車載やAIに注力。
野村総合研究所	5,997	33.0	67.2	34,900	コンサル・開発・運営を一貫提供。金融・流通に強みを持つシステム構築大手。
NTT	157	12.3	1.4	140,000	国内通信最大手。持ち株会社制で固定・携帯・光回線を広く展開し高シェア。
日鉄ソリュ	4,479	28.0	73.0	8,196	日本製鉄系。製造業向けに強み。ITインフラサービスやデータセンター事業を強化。

【投資成功シナリオ】

クラウド移行とゼロトラストの普及で、統合型セキュリティのサブスク収益が拡大する。既存顧客へのアップセルが進み、製品群の統合で運用コストも低下。営業CFの安定を維持しつつ成長投資を回し、収益性と成長性の両面で市場評価が切り上がる。

【投資失敗シナリオ】

競合の機能追隨と価格競争で単価が伸びず、需要増の割に利益率が改善しない。キャッシュ配分の変化で現金が細り、成長投資が鈍化してプロダクト優位が崩れる。信用倍率の高さも重なり、期待先行で積み上がったバリュエーションが調整局面に入る。

【メモ】

確認したい論点は、財務CFの大幅マイナスの内訳（株主還元・投資・その他）と、自己資本比率低下の要因。加えてサブスク比率の推移、主力領域（クラウド/ネットワーク/エンドポイント）の成長ドライバー、競合比較での優位点を次に深掘りする。